

2015
1月号
災害版No.44



表紙写真：迎春 良い年になりますように...



着実な町の復興をめざして

双葉町長 伊澤史朗



27年度は、避難指示解除準備区域内の両竹、浜野地区の本格除染が実施される予定です。また、先月17日からは両竹公民館前にある津波ガレキの処理が始まっており、今後避難指示解除準備区域内の除染、復旧作業が本格化していきます。

平成27年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆さまの今年一年のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による全町避難から、早いもので4年目の新年を迎えました。本年3月には念願の常磐自動車道の全線開通が予定されており、これを契機に町の復興に弾みをつけるため、懸案である重要課題に積極的に取り組み、町の復興を加速させていく所存であります。

双葉町内の除染、復旧作業については、これまで原発事故のためほとんど手付かずの状態でしたが、平成

さらに、本年2月から帰還困難区域内の拠点除染として、双葉中学校、双葉高等学校、双葉町コミュニティセンター、双葉駐在所に加え、国道288号線、県道4路線などの除染も実施される予定です。なお、昨年8月に当時の根本復興大臣から提示された「大熊・双葉ふるさと復興構想（根本イニシアティブ）」では、「町の復興拠点として重要な地区や施設等については、現時点において帰還困難区域であっても、町の復興に資する観点から優先的に除染を行うこと等を地元とともに検討すること」が明示されたことから、町復興まちづくり長期ビジョンを見据えながら、今後国との協議を実施していく考えです。

次に、復興公営住宅の整備についてですが、昨年11月に郡山市内に八山田団地1号棟が完成し、町民の方が入居

される運びとなりましたが、本年3月までには、さらに、いわき市下神白団地が完成する予定です。今後双葉町民が中心となって入居できる復興公営住宅として、町外拠点の中心となるいわき市をはじめ、郡山市、白河市、南相馬市での県による整備が本格化してまいりますので、できる限り早期に入居できるよう、国県に対して、復興公営住宅と町外拠点の早期整備を強く求めてまいります。

さて、町の復興に向けた「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」の策定については、復興推進委員会からの中間報告を受けて、昨年11月から12月に実施した町政懇談会及び意見公募（パブリックコメント）で出されたご意見を委員会へ報告し、委員会の審議を経て長期ビジョンを策定することとしています。また、「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画」については、津波被災地域復興小委員会からの中間報告を受けて、両竹・浜野地区住民を対象とした説明会を開催するとともに、両地区住民を対象にした住民意向調査を行い、土地利用計画等に対するご意見を伺ったところ。今後、いただいたご意

見を小委員会へ報告し、委員会の審議を経て計画を策定する予定です。計画策定後は、町内の復旧、復興に向けた各種の施策を具体化させてまいります。中間貯蔵施設については、町政懇談会で町民の皆さまから多くのご意見をいただいております。出された意見等も踏まえ、今後、議会と協議しながら対応していく考えです。

このほか、昨年再開した町立学校における教育活動の充実、町民の皆さまの健康管理、町民同士の絆を維持・発展できる施策などにも、引き続き重点的に取り組んでいく考えですので、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。年頭にあたってのご挨拶といたします。



教育長 半谷 淳



副町長 半澤 浩司



絆 — きずな —

双葉町議会議長

佐々木

清



平成27年の新年を迎え、今なお全国で避難生活を強いられて、辛く厳しい生活を送られております町民の皆様、町議会を代表してご挨拶を申し上げます。

東日本大震災、更に追い打ちをかけるように発生しました東京電力(株)福島第一原子力発電所事故後、今年3月で4年目を迎えようとしておりますが、月日だけがむなしく流れており、全国39都道府県の334自治体に町民の皆さまがお世話になっており、それぞれの自治体に対し改めて御礼と感謝を申し上げます。

今年も多くの町民が、避難先で新年を迎えることになり、1日でも早く大きな声で「あけまして おめでとう」と挨拶をできないことが、残念でなりません。

さて昨年は、町の復興のために大きな時期でもありました。伊澤町長自ら復興元年と目標に位置付けられました。議会といたしましても出来る限り執行部と協力をして進めてまいりましたが、思うように進まなかったことも事実であります。

議会の代表の立場として、国・県の関係機関に対し直接要望をさせていただきました。その中でも特に復興公営住宅の遅れがあります。県内の双葉町が関係する復興公営住宅の完成率が6%以下となっております。

今年3月までの完成も今の状態では15%位と言われております。町民の皆さまが安心できる生活環境の確保、高齢者に対しての医療体制の充実など、議会一丸となって取り組んでまいります。

さらに中間貯蔵施設の問題があります。今年の最も重要な問題の一つであります。昨年は町民に対しての説明、地権者に対しての説明が行われましたが、丁寧な説明が行われたとは思いません。議会といたしましても、執行部としっかりと議論を行い、統一した判断をしてまいりたいと思っております。

また、今年も昨年に引き続き高速道路の無料措置、国民健康保険、介護保険等の税の優遇措置など、特に高齢者の避難生活の長期化に伴い介護の問題が課題となっており、全町民が帰還できるまで、議会としてもしっかりと国・県に要望してまいります。

終わりに、全町避難から4年目を迎えるようとしております。町民一人ひとりが、健康で希望を持って日々の暮らしを過ごされますよう、心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

双葉町議会

- | | |
|-----|--------|
| 議長 | 佐々木 清一 |
| 副議長 | 岩本 久人 |
| 議員 | 谷津田 光治 |
| 議員 | 清川 泰弘 |
| 議員 | 菅野 博紀 |
| 議員 | 高萩 文孝 |
| 議員 | 白岩 寿夫 |
| 議員 | 羽山 君子 |





新年の抱負

いわき市立東北小学校5年
 箭内 奈菜美さん(山田)

双葉町の友達のみなさん元気
 していますか。
 私は今、福島県いわき市の学
 校に通っています。新しい友達
 もたくさんできました。



ぼくらの生活

島根県大田市立仁摩小学校5年
 高田 一宏くん(郡山)

双葉町には、ぼくは小学一年
 生までしかいなかったけど、ク
 ラスのみんながやさしかったこ
 と、家に柿の木があって、その
 柿を取って食べていたことが思

幼稚園から習っている水泳は、
 4級になり今、バタフライの練
 習をしています。私の今年の目
 標は、水泳をきれいに早く泳げ
 るようになって、1級の試験に
 合格することです。

そのためには、先生のアドバ
 イスをよく聞いて練習を一生懸
 命がんばりたいです。

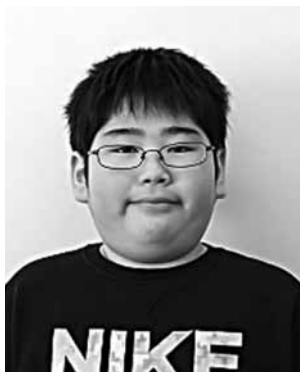
また、他にも習っているピア
 ノや学校の勉強など、何事にも
 最後までがんばる年にしたいで
 す。

最後に今年も「集まれ！ふた
 ばっ子」で友達のみなさんに会
 えるのを楽しみにしています。

い出に残っています。

避難生活で感じたことは、こ
 わいなあ、食事が少ないなあ、
 早くみんなに会いたいなあ、い
 つこの場所を離れるのかなあな
 ど、いろいろな思いながら避難生
 活をしました。

新年にやりたいことは、弟の
 竜宏へのプレゼントです。竜宏
 はやさしくて「ほしい」とぼく
 が言うのと、それをくれたりして
 くれる弟です。なので、そのお
 返しに何かプレゼントをしたい
 と思っています。



六年生に向かつて

双葉町立双葉北小学校5年
 大高 凧土くん(長塚二)

ぼくは、昨年の6月に双葉南
 北小学校に転校してきました。
 初めは、知らない場所や先生た
 ちに会うのが少しこわかったけ
 ど、今は毎日が楽しくて、双葉



避難生活で感じたこと

水戸市立赤塚小学校5年
 今井 遥菜さん(長塚一)

私は、一年生のとき震災にあ
 いました。そのあと栃木県のス
 ポーツ施設に1カ月半くらい避
 難していました。
 ととき電気と水が止まるこ
 ともありました。そのとき通っ

北小学校に通っていた頃と同じ
 気持ちです。5年生は、ぼくと
 先生の二人ですが、これから友
 達ももっと増えるといいと思
 います。

昨年は、ブリティッシュヒル
 ズで英語を学んだり、6年生と
 一緒に東京へ修学旅行に行っ
 りしてとても楽しかったです。
 休み時間には、トランプや将棋
 をして先生方ともたくさん遊
 びました。楽しかったです。

今年も、6年生になります。
 1年生や2年生を助けてあげら
 れるような6年生になりたいで
 す。

ていた小学校の給食が、コッペ
 パンとジャムと牛乳だけという
 日もあり、おなかを空かして
 帰ったこともありました。電気
 が止まっているときは、トイレ
 も使えなかったり、暗い中でご
 飯を食べたり、宿題をしたりい
 るいろ不便なことがありました。
 そんな大変なときもあったけ
 ど、その施設の人たちが親切
 にくれたので励みになりました。
 もし、どこかで同じよう
 なことが起こって困っている人
 がいたら、励ましたり助けてあ
 げたいと思います。
 もう、東日本大震災みたいな
 大きな地震がこないでほしいで
 す。

新年の抱負



いわき市立泉小学校5年

脇坂 南帆さん(長塚二)

私の今年の目標は三つあります。まず一つ目は、私の苦手な社会を克服することです。社会の中で特に地図やグラフを見て答えることが苦手なので、そこを

優先して克服したいです。二つ目は、早寝・早起き・朝ご飯をきちんと守りたいです。1、2、3年生と学年が上がってきて夜更かしをしてしまうことが多くなっています。だから、今年は早寝・早起き・朝ご飯の3つを心がけて生活したいと思います。

三つ目は、手洗い・うがいをしっかりとすることです。私は、家に帰ってくるのと簡単に手洗いうがいをするので、手洗いうがいのため、体の中にいるばい菌を外に出せず風邪をひいてしまうことがあるので、これからはしっかりと手洗い・うがいをしようと思います。

2015年がんばること



いわき市立平第一小学校5年

泉田 憧くん(両竹)

ぼくは、2015年がんばりたいことが二つあります。一つ目は水泳です。ぼくは、幼稚園の年長の時から水泳を始め、東日本大震災で途中ででき

ない時もありましたが、今は、9級になり平泳ぎを習っています。平泳ぎは、今まで習っていたクロールや背泳ぎと違って、足を「ピン」と立てなければいけないところが難しいです。がんばって早く合格するように練習している最中です。

二つ目は、習字です。習字は、12月に始めたばかりで、まだまだこれからですが、これからがんばって上手になりたいと思います。1カ月に1回試験があるので、毎回合格できるように練習したいと思います。



新年の抱負



埼玉県加須市立騎西小学校5年

新田 洋斗くん(浜野)

今年がんばりたいことは二つあります。一つ目は野球です。ぼくが住んでいる加須市の選抜チーム「加須ドリーム」が県大会で優勝し、埼玉県代表として全国大

会に出場しました。同じチームから二人の先輩が選ばれて大舞台でプレーする姿を見て、とても感動しました。今年は、ぼくも選抜メンバーになって、全国の強豪チームと対戦してみたいです。

二つ目は、努力をすることです。ぼくは努力することが苦手な度度でもくやしい思いをしてきました。しかし、国民栄誉賞の授賞式で会った長嶋さんと松井さんが、毎日何百回もの素振り続けたから巨人の4番を任せられたことを思い出しました。「努力に勝る天才なし」この言葉を目標にしてぼくができることを少しずつがんばりたいです。

新年の抱負



白河市立白河第二小学校

佐藤 未彩さん(長塚二)

双葉町の町民のみなさんお元気ですか。私は、双葉にいた頃から今も続けていることがあります。それは、「習字」です。

震災前から半谷秋峰先生のもとで一生懸命習字を習っていました。それまで字を書くことが苦手だった私は、秋峰先生に習字を習い始めてから字を書くことの楽しさを知ることができました。

そして震災後も秋峰先生とは離れ離れになってしまいましたが、通信という形で指導してもらっています。今は、土日に習字をし、字を書くことが好きになりました。

もっと上の段を目指して、これからがんばっていきたくと思います。みなさんも目標を見つけ、これからはがんばってください。

第4回双葉町議会定例会

12月17日招集の平成26年第4回双葉町議会定例会で、伊澤史朗町長が行政報告を行いました。その概要をお知らせいたします。

行政報告



東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故により全町避難を強いられてから、3年9カ月が経過いたしました。

町民の皆さまには、いまだに先が見えない現状に大きな不安とご苦労があるものと推察しております。町といたしまして、町民の皆さまの生活再建と町の復興に向けて、諸問

題に全力で取り組んでいるところであります。

9月定例会以降の行政経過についてご報告申し上げます。

双葉町民作品展覧会 福島県ソフトボール大会

10月18日・19日の両日、勿来地区総合文化展が勿来体育館で開催され、勿来地区文化協会のご支援により、双葉町民作品展覧会を開催しました。いわき市や南相馬市、加須市、つくば市などから、町民の皆さんの作品約120点が出展され、勿来地区の市民の皆さんとの文化交流を図りました。

10月19日には、東日本大震災復興事業として第1回市町村対抗福島県ソフトボール大会が相馬市で開催されました。県内外に避難生活を強いられている厳しい状況の中、双葉町

チームは全体練習ができず、2回戦で惜敗したものの、選手の皆さんの全力プレーで大変勇気付けられたところであります。



町表彰式

11月3日には、平成26年度双葉町表彰式を挙行いたしました。今回の表彰式では、永きにわたり消防団員としてご活躍され、本町の住民福祉の向上に多大の貢献をされた4名の方々と、本年9月に韓国で行われた第17回アジア競技大会の自転車競技で、銀と銅の2つのメダルを獲得する好成績を挙げられた方に功勞表彰

をお贈りしました。また、永きにわたり消防団員としてご活躍いただいた4名の方々に永年勤続表彰をお贈りしました。さらに、東日本大震災と原子力災害により全町避難を余儀なくされた双葉町民を支援するため、各種基金に多額の金員をご寄附いただいた1名、3団体の方々と、町立学校の教育振興のためグラウンドピアノをご寄附いただいた方に感謝状を贈呈いたしました。

これまで多年にわたりそれぞれの職務に精勵努力されてきたことに対して、その功績を称えるとともに、双葉町の復旧、復興に向けて、今後ともご指導とご支援をお願い申し上げます。



梅檀祭 消防団秋季検閲式

11月8日には、幼稚園・小・中学校による「梅檀祭」が町立幼小中学校仮設校舎体育館において開催されました。子どもたちが一生懸命練習を重ねた和太鼓の演奏や学校ごとの演技の発表は、参観された皆さまに大きな感動を与えていただきました。



11月15日には、震災後2回目となる平成26年双葉町消防団秋季検閲式を、多くのご来賓をお招きして町立幼小中学校仮設校舎体育館で開催

いたしました。全国の避難先から集まった40名余りの消防団員が石井団長の指揮のもと、閲団と通常点検が行われ、その士気の高さを確認したところであります。

ふくしま駅伝大会



11月16日は、第26回市町村對抗福島県縦断駅伝競走大会が白河市陸上競技場から福島県庁までの16区間95.1kmで繰り広げられました。選手の方々は避難生活で全体練習もできない厳しい状況のなか見事完走し、昨年より順位を上げる力走を見せていただきました。

選手の頑張りや、避難生活を強いられている町民の皆さまに、元氣と感動を与えていただいたと思います。監督・コーチ・選手、そして支援していただきました関係者の皆さまに、改めて感謝申し上げます。

町政懇談会



11月20日から12月5日にかけて、福島県内7カ所、福島県外5カ所の計12カ所で町政懇談会を実施し、町民の皆さまが各地に避難しているなか、347人の方々にご出席いただきました。今回の町政懇談会では、

まず私から挨拶の中で、前回の町政懇談会以降の行政の取組みについて報告した後、10月29日に双葉町復興推進委員会から提出された「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」中間報告の概要を説明し、続いて、復興公営住宅や中間貯蔵施設などの町政全般について、多くのご意見、ご要望、ご質問をいただきました。今回の懇談会でも出されたご意見等を、今後の町政運営に反映させるべく検討を深めてまいります。

要望活動

11月26日から28日にかけて、県に対して双葉町の復興に向けた重点項目について要望活動を行いました。まず、26日は、竹下復興大臣に対して、復興財源の確保、復興公営住宅の早期整備、避難者に対する医療費の一部負担金等の免除継続、避難者に対する高速道路の無料措置の延長、町内復興拠点の整備について要望を行いました。また、厚生労働省に対しては医療費の免除継続を、国土交通省に対しては高速道路無料措置の延長と町内拠点の整備に大きな役割を担う常磐自動車道復興インターチェンジの双葉町への設置等について、強く要望いたしました。

翌27日は、宮澤経済産業大臣が双

葉町の避難指示解除準備区域の中野地区と、帰還困難区域内の双葉駅周辺を視察され、その際に、町民の生活再建のため、被害者の実情に見合った損害賠償を行うよう、東京電力に対する指導の徹底を引き続きお願いするとともに、国の責任において、福島第一原子力発電所の廃炉措置の安全を担保し、早期の進捗を図った上で、町の長期ビジョンにそった、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の実現などを要望いたしました。

28日には、内堀福島県知事に対して、復興祈念公園・アーカイブセンターの双葉町への設置、町内復興拠点の整備に向けた支援及び復興インテークエンジの設置とアクセス道路の整備を要望いたしました。

3日間の要望では、町の要望内容についてそれぞれ一定のご理解をいただきましたので、その実現に向けて引き続き取り組んでいく考えであります。

双葉町総合美術展

12月2日・3日の両日は、郡山市民プラザ・ビッグアイで、双葉町芸術文化団体連絡協議会主催により、第27回双葉町総合美術展と町民作品展覧会が開催されました。四半

世紀を超える歴史あるこの美術展を継承されております、横山会長さんを始め会員の皆さま、そして町民の皆さまの熱意によりまして、多くの素晴らしい作品が展示され、盛大に開催されたところであります。会員及び出品されました皆さまのご労苦に感謝申し上げます。



一時帰宅・除染

帰還困難区域への自家用車を用いた住民の一時帰宅につきましては、本年4月25日から11月30日までの実

績数が3,948世帯、9,369名、バスによる住民一時帰宅の実績数は176世帯、268名となっております。また、9月15日から国道6号の通行が再開され、交通量が増加しております。町では、一時帰宅者の安全の確保のため、安全パトロール等を強化し、町道等の倒木撤去や危険箇所の補修、防犯防災監視などに努めております。11月11日から12月5日にかけては、町道等の通行安全確保のため花ノ木線外10路線11カ所の応急補修工事を実施したところで

す。環境省が行う除染につきましては、拠点除染として、既に双葉町役場庁舎を実施し、年明けの2月からは、双葉中学校、双葉高等学校、双葉町コミュニティセンター、双葉駐在所に加え、携帯電話の基地局や国道・県道についても実施される予定となっております。

また、本格除染として、避難指示解除準備区域内を平成27年度から開始することとしており、先般、地権者に対する事業説明会が開催されたところで

野生鳥獣駆除対策

イノシシ等野生鳥獣の駆除対策につきましては、5月から環境省と福島県が町内にハコ罠12基を設置し捕獲を行っており、これまでにイノシシ92頭を捕獲し一定の成果を上げております。次年度以降も国、県へ捕獲の継続、罠の増設を要請し、農地等の荒廃、家屋への侵入など被害防止に努めてまいります。



内部被ばく検査

ホールボディカウンターによる内部被ばく検査につきましては、いわき事務所、埼玉支所、ひらた中央病院において、10月末までに316名の方が受検されております。また、福島県所有の車載型ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を9月末までに実施したところ、197名の方が受検されました。引き続き検査を進めてまいります。

町独自で委託しております双葉町内の空間放射線量の測定結果につきましては、これまでどおり福島県の

システムに登録し、随時公表しております。現在、10月に実施した403地点の測定結果をインターネットの福島県放射能測定マップ上に各市町村とともに公開しております。引き続き空間放射線量の把握に努めます。

東日本大震災に関する災害弔慰金につきましては、本年度は23件が認定され、8万円をお支払し、大震災当初からの合計は142件、4億3千5百万円となっております。

今年度が4回目となります「生活支援物資配送事業」は、12月5日から住民の皆さまが役場へ届け出られている居住先へ配送を開始いたしました。生活の一助としてお役立ていただければ幸いです。

ICTきずな支援システム

ICTきずな支援システム事業につきましては、11月末現在のタブレット端末借用申込み件数は1,720台で、このうち配付済み台数は1,639台となっております。現在も申込みと配付を順次進めているところであります。11月18日から12月15日にかけては、タブレット端末機器の操作方法などの疑問に答えるため、タブレッ

ト講習会を福島県内外で19回開催いたしました。現在では、各地の自治会などでタブレットを使った交流会や勉強会などが開催されており、タブレットを通じた町民相互の交流機会の拡大を図るため、さらにサポート体制を充実させてまいります。



復興に向けた取り組み

町の復興に向けた取り組みについてありますが、10月29日に双葉町復興推進委員会から「双葉町復興ま

ちづくり長期ビジョン」の中間報告津波被災地域復興小委員会から「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）」の中間報告をそれぞれいただきました。「双葉町復興まちづくり長期ビジョン」につきましては、11月17日に中間報告の概要版を町民全世帯へ配布したほか、11月20日から県内外12カ所で開催した町政懇談会において町民の皆さまへご説明し、広くご意見を募ったところです。今後、いただいた町民の皆さまのご意見を委員会へ報告し、委員会の審議を経て復興まちづくり長期ビジョンを策定することとしております。「双葉町津波被災地域復旧・復興事業計画（両竹・浜野地区復興計画）」につきましては、中間報告を受けて、11月21日及び22日に両竹・浜野地区住民を対象とした説明会を開催するとともに、両地区住民を対象としたアンケート形式の住民意向調査を行い、土地利用計画等に対するご意見・ご意向を伺ったところです。今後、いただいたご意見・ご意向を小委員会へ報告し、委員会の審議を受けて計画を策定することとしております。



復興公営住宅の整備状況につきましては、11月7日に原発事故で避難している人を対象とした、県営の復興公営住宅としては第1号となる八山田団地1号棟の鍵の引渡し式が郡山市にて行われました。20戸で構成される県営八山田団地1号棟には、申し込みをされた双葉町民が入居する運びとなり、同月15日から入居が始まりました。エレベータの設置とバリアフリーの住戸により、高齢者にとっても住みやすい環境が整い、入居された皆さんにとって安心した暮らしを少しでも取り戻せるものと期待しております。さらに、来年3

月までには、いわき市下神白（しもかじろ）団地が完成する予定です。これらの団地のほか、今後、双葉町民が中心となって入居できる復興公営住宅として、町外拠点の中心となるいわき市勿来酒井地区をはじめ、郡山市喜久田町地区及び鶴見垣一丁目地区、南相馬市上町（かみまち）地区、白河市鬼越地区などで県による整備が本格化されます。復興公営住宅に入居を希望される方が、できる限り早期に入居できるよう、引き続き、国・県に対して整備の加速化を求めてまいります。

住民意向調査についてであります。復興庁・福島県・本町の共同で9月19日から10月3日の期間で実施した「双葉町住民意向調査」の結果の速報版が11月14日に公表されました。今回の調査結果では、避難指示解除後の帰還の意向として、「戻りたいと考えている」が12・3%で前回から2・0ポイント増え、また「まだ判断がつかない」が27・9%で前回から10・5ポイント増えた一方、「戻らないと決めている」が55・7%で前回から9・0ポイント減少しました。将来の帰還について「戻りたいと考えている」「まだ判断がつかない」という回答が増えた今回の調査は、町の復興に対する町民の期待

感の表れと重く受け止めております。このほか、住民意向調査では復興公営住宅に関する入居の意向などについても調査しておりますので、この結果を今後の復興公営住宅の整備や町の復興計画検討のための基礎資料として活用してまいります。

原子力損害賠償

原子力損害賠償につきましては、本年に入ってから、4月に精神的損害の追加賠償、7月に住居確保に係る追加賠償及び墓石の修理に関する賠償、9月に宅地・田畑以外の土地及び立木の財物賠償の請求が開始されており、その内容について町民の皆さまに広く周知してまいりました。今後、墓石等の移転に関する賠償や、家財の実際の損害額の積み上げによる定型賠償金額を超える場合の個別賠償について検討されていることから、これらの賠償の早期実施を国、東京電力に求めているところで

す。町としては、引き続き、被災者に寄り添った賠償がなされるよう、国及び東京電力に対して要求してまいります。原子力損害賠償未請求者につきましては、平成26年11月末現在において、仮払金を受

けて本賠償請求を行っていない方が152名になっております。徐々に減ってきているものの、依然として未請求の方がおりますので、引き続き、こうした未請求者の皆さまに対する賠償請求の周知を進めてまいります。

また、双葉町弁護士への依頼件数は、平成26年11月末現在で延べ280世帯716名となっております。未請求者のほか請求手続きで課題を抱えている町民を支援するため、双葉町弁護士との連携を引き続き図ってまいります。

福島第一原発の廃炉

東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた進捗状況は、10月22日から1号機原子炉建屋カバーの解体作業が始まったほか、11月5日には、4号機使用済燃料プールからの燃料1,533体、うち使用済燃料等1,353体の取り出し作業を終え、残る未使用燃料180体の運び出しも年内中には終わる予定となるなど、廃炉に向けた取り組みが着実に進められていくものの、海水配管トレンチの止水・閉塞問題や多核種除去設備による汚染水浄化作業の遅れ、廃炉に従事する作業員の相次ぐ事故の発生など、依然として町民に多くの

不安を与えているところと見受けられます。町としては、引き続き、国及び東京電力に対して、福島第一原子力発電所の事故収束を安全かつ確実に行うよう求めていくとともに、福島県と連携して安全監視をしてまいります。

中間貯蔵施設について

中間貯蔵施設についてであります。国は9月29日から10月12日にかけて、県内外12会場において、地権者説明会を実施いたしました。説明会では様々な意見が出されましたが地権者の十分な理解が進んでいないと言えないと考えられ、また、両町の出席者が半数にも満たない状況であることから、10月23日に私と大熊町長とが、

- 1 地権者に丁寧な説明し、地権者の理解を得られるようにすること。
- 2 説明会に出席されなかった地権者に対して、早急に説明すること。

の2項目を国に対して申し入れを行いました。その後、町政懇談会を開催し、町民の皆さまからこの問題に関しても多くの意見をいただいております。出された意見等も踏まえ、今後議員の皆さまと協議しながら対応してまいります。

不安を与えているところと見受けられます。町としては、引き続き、国及び東京電力に対して、福島第一原子力発電所の事故収束を安全かつ確実に行うよう求めていくとともに、福島県と連携して安全監視をしてまいります。

双葉町の復興に向けた最重点項目について 国関係省庁と福島県に対して要望活動を行いました。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故により全町避難を強いられてから、3年9カ月が経過しましたが、町の復興・帰還の見通しが立たず、いまなお約7千人の町民の皆さまは、全国各地で不自由な避難生活を強いられています。このような状況の中、町が現在抱えている復興の課題について、国、県に対して対応を求めるため、11月26日から28日にかけて要望活動を行いましたので、その概要をお知らせいたします。

11月26日、竹下復興大臣に対して町の復興に向けた最重点項目について要望いたしました。

町の復旧・復興事業を進めていくためには、長期にわたり、復興事業に必要な財源措置が必要であり、とりわけ復興財源については、復興集中期間が平成27年度までとされていますが、他の地域に比べて特別に復興が厳しい町の現状に照らし、復興集中期間後においても、復興に要する財源を着実に確保されるよう強く要望いたしました。

また、復興公営住宅の早期整備のために特段の措置を講じるように求めるとともに、避難者に対する医療費の一部負担金等の免除継続、避難者に対する高速道路の無料措置の延長、町内復興拠点の整備についても要望いたしました。



▲竹下復興大臣への要望

このほか厚生労働省に対しては、避難者に対する医療費の一部負担金等の免除継続について、また、国土交通省に対しては町への帰還が可能となり、以前の生活ができるようになるまでの高速道路の無料措置の延長、常磐自動車道復興インターチェンジの双葉町への設置と復興インターチェンジへのアクセス道路の整備、国道6号線の4車線化及び国道288号線の拡幅整備について、それぞれ要望いたしました。

11月27日、宮澤経済産業大臣が双葉町の避難指示解除準備区域の中野地区と、帰還困難区域内の双葉駅周辺を視察され、その際に、町民の生活再建のため、被害者の実情に見合った損害賠償を行うよう、東京電力に対する指導の徹底を引き続きお願いし、国の責任において、福島第一原子力発電所の廃炉措置の安全を担保し、早期の進捗を図るとともに、町の長期ビジョンに沿った、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の実現などを要望いたしました。



▲宮澤経済産業大臣への要望

11月28日には、双葉町復興推進委員会からの長期ビジョンの中間報告を踏まえ、内堀福島県知事に対して、復興祈念公園・アーカイブセンターの双葉町への設置、町内復興拠点の整備に向けた支援及び復興インターチェンジの設置とアクセス道路の整備を要望いたしました。



▲内堀福島県知事への要望

江尻邦夫前教育長が 瑞宝双光章を受章

学校教育並びに教育行政の推進に貢献

このほど、平成26年秋の叙勲において江尻邦夫前教育長が瑞宝双光章を受章されました。

11月18日、いわき事務所を訪れ、伊澤史朗町長に受章の報告を行いました。

江尻前教育長は、「身に余る光栄に感激しています。これも皆さま方の温かいご指導、ご支援のおかげです。多くの方々にお世話になり、感謝を申し上げたいと思います」と話され

ました。

江尻前教育長は、長年にわたる教員生活の中で、小学校長、中学校長として学校教育の推進に取り組みされる一方、福島県中学校長会副会長やいわき教育事務所長、県北教育事務所長の要職を歴任されるなど、福島県の教育行政に大きく貢献されました。また、その手腕が高く評価され、双葉町教育委員会教育長として選任されました。そして、幼児教育をはじめ、双葉町の教育改革に取り組むなど、教育行政の振興に多大な功績を残してこられ、平成24年には、文部科学大臣から地方教育行政功労表彰を贈られました。

伊澤町長は「長い間のご功績に感謝申し上げます。多くのご苦勞があつたことと思いますが、お体に気をつけて今後とも双葉町の教育行政を見守っていただきます」と述べています。

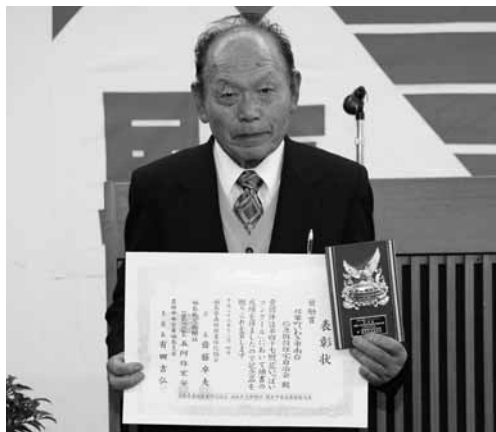


…第47回花いっぱいコンクール…
いわき市南台応急仮設住宅自治会が

奨励賞を受賞

本正彦県園芸課長が審査報告を行い「花壇づくりに対する熱い思いが伝わった。地域のつながりが感じられた」と話されました。

渡部自治会長は、「苗植えから猛暑の中での草取りや水かけなど、会員の皆さんが花の咲くのを楽しみにして、代わる代わる手入れをした結果、このような賞をいただくことができ大変うれしく思います。長引く避難生活の中、植物を育てることで、心の安らぎや会員の連帯感を得ることができました。また、自治会では月一回の仮設住宅周辺のごみ拾いを行い、環境美化活動に努めています」と話されました。



12月4日、県森林・林業・緑化協会、農林中央金庫福島支店、福島民友新聞社主催の第47回花いっぱいコンクールの表彰式が福島市で開催されました。

県内の学校や事業所などを対象にした団体の部に56団体の応募があつた中で、いわき市南台応急仮設住宅自治会が奨励賞を受賞し、渡部一美自治会長に表彰状と盾が贈られました。

表彰式では主催者を代表して渡辺昌俊福島民友新聞社常務が「歴史あるコンクールを今後も続けていきたい。震災からの復興のさなかにあつても花は生活の一部にありました。これからも花を通じて地域のつながりを育ててほしい」とあいさつ。松



温かいご支援をありがとうございます

▶12月4日、日産自動車株式会社様より、日産パネット1台をご寄附いただきました。



11月17日、栃木県小山市「志塾」代表 鈴木稔様よりふたばっ子教育支援寄附金にご寄附いただきました。



指名競争入札参加資格審査

平成27・28年度
申請受け付け

町の指名競争入札に参加するためには、「指名競争入札参加資格審査申請書」を提出しなければなりません。提出された申請書は、一定の基準に基づき審査を行い、必要な資格を満たしている方を有資格者として登録します。今回は、平成27・28年度2カ年分の資格審査申請書を受け付けます。

提出場所及び提出方法...

持参または郵送（締切日必着）のいずれかの方法により双葉町いわき事務所総務課管財係へ提出してください。

受付期間

2月1日（日）から2月28日（土）まで
午前8時30分～午後5時15分

※土・日曜日、祝日を除く（郵送の場合は可）

当該資格の有効期間

平成27年6月1日から平成29年5月31日までの2年間有効です。

提出書類...町ホームページからダウンロードしてください。

○共通様式：「双葉町入札参加資格者名簿入力票」

○添付書類

- ① 工事・測量等の請負を希望する場合
 - ・福島県統一様式に準じる（各1部提出）
- ② 物品役務を希望する場合
 - ・入札参加資格審査申請書
 - ・登記事項証明書またはその写し（個人の場合は身分証明書またはその写し）
 - ・納税証明書またはその写し
 - ・営業所一覧表（営業所などに委任する場合は委任状）
 - ・直前1年の営業年度の財務諸表
 - ・その他営業の内容、能力などを示すもの（実績高調書、従業員数および営業年数調書など）

※申請書はA4版ファイルとじとする

ファイルの色については、（工事等…グリーン、測量等…イエロー、物品役務…ピンク）で提出してください。

平成27・28年度 指名競争入札参加資格審査申請に あたっての特例制度について

平成23・24年工事等請負有資格者名簿に登録されており、その主たる営業所又は従たる営業所の所在地が、平成23年3月11日時点で旧警戒区域等（旧警戒区域、旧計画の避難準備区域及び旧緊急時避難準備区域）にあった方は区域の設定による経営状況への影響を考慮し、審査基準日を平成23年3月11日と平成26年7月1日から選択できることとします。（ただし、発注種別に対応した建設業の許可を申請日現在も有していることが必要です。）

また、対象となる方については、名簿の有効期間内において一度だけ再認定（選択しなかった方の審査基準日で再認定）を受けることができます。

第27回双葉町総合美術展 双葉町民作品展覧会

12月2日、3日の両日、郡山市ビッグアイ6階展示室において、双葉町芸術文化団体連絡協議会主催による第27回双葉町総合美術展と双葉町民作品展覧会が開催されました。双葉町民作品展覧会は10月に行われた勿来市民会館に続いての開催となりました。

会員の皆さんが全国に避難している中、書の部、洋画の部、写真の部、刻字の部など9つの部門から約100点の素晴らしい作品が、また、町民作品展覧会には自治会や婦人学級の皆さんのさまざまな手芸の力作約80点が出品され、会員の皆さんにより会場内にきれいに展示されました。

開会式では横山久勝会長が「震災後3回目の開催となりますが、さまざまな環境の中で会員の皆さんが研鑽を重ね、1つ1つにそれぞれの思いを込めた作品です。皆さんに鑑賞していただき、来年の励みにしていただきたい」とあいさつしました。

続いて伊澤史朗町長、佐々木清一町議会議長が祝辞を述べられました。

2日間とも来場者が入れ替わり立ち代わり訪れ、作品を鑑賞したり、作品を通して話が盛り上がり、交流がさらに深まったようでした。



▲▼開会式





県北双葉会 忘年会

—新しい年に向かって—

12月2日、3日、飯坂温泉ホテル聚楽において、一泊二日の日程で県北地区借り上げ住宅自治会、県北双葉会の忘年会が開催され、福島市を中心に避難されている方々約40人が参加しました。

初めに鴻崎太郎自治会長が、「このようににたくさんの方々に参加していただき感謝しています。また月2回の自治会交流活動にもご参加いただきありがとうございます。厳しい避難生活ではありますが、県北地区に避難しているという縁を大切にし、自治会会員の絆を深めながら助け合い、この苦勞を一緒に乗り越えていきましょう」とあいさつしました。

続いて、伊澤史朗町長から双葉町の現在の状況について、詳しい説明がありました。

玉野憲一さんの音頭で乾杯し、美味しいお料理に舌鼓を打ち、お酒を酌み交わしながら、和やかに懇談しました。またカラオケ大会や大抽選会等も行われ、空くじなしの景品に参加した皆さんは大喜び。避難生活の苦勞を忘れさせるひとときとなり、会の目的である会員の絆がいつそう深められました。

参加された皆さんは、ゆっくり温泉につかって一年の疲れを癒しながら、新しい年も健康に気を付けてがんばることを誓い合いました。

双葉農業普及所からのお知らせ

双葉農業普及所は、毎月県内5カ所で、避難されている農家の皆さんの相談窓口を設置しております。

窓口では、相談者の現在の状況を聞き取らせていただきながら、皆さんが必要な情報、(農産物・土壌モニタリング結果、原子力災害に対応した農業技術情報、資金・事業の紹介など)をわかりやすくご説明いたしますので、お気軽にお越しください。

1月の日程は右記のとおりです。

※町村間わずに最寄りの窓口にお越しください。

※右記以降の日程は随時お知らせいたします。

双葉農業普及所ブログ「ふたばの農業通信」に掲載しておりますので、ご利用ください。パソコン、携帯電話からご覧になれます(携帯電話のポケット料金にはご注意ください)

※時間：午前10時～正午

1月9日(金)	葛尾村役場三春出張所 (三春貝山多目的運動公園管理棟)
1月15日(木)	富田町仮設住宅 (郡山市富田町若宮前応急仮設住宅集会所)
1月16日(金)	双葉町役場いわき事務所 (いわき市東田町地内)
1月22日(木)	浪江町役場二本松事務所 (二本松市平石高田第二工業団地)
1月23日(金)	大熊町役場会津若松出張所 産業建設課内

【問い合わせ先】 双葉農業普及所

☎ 0240-23-6474
FAX 0240-27-4747

東北地区 社会教育委員連絡協議会表彰



このたび長年にわたり社会教育委員として社会教育の発展に貢献したことを称えられ、双葉町社会教育委員の会議議長である岡田常雄さん(三三)が東北地区社会教育委員連絡協議会表彰を受けられました。

12月10日、双葉地区社会教育委員連絡協議会研修会が双葉町いわき事務所で開催され、その席上で、石井智明福島県社会教育課社会教育主事から表彰状が伝達されました。

岡田さんは、平成7年に双葉町社会教育委員に任命され、平成14年には議長に就任、現在は双葉地区社会教育委員連絡協議会会長、福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長の要職に就かれています。

いわき・まごころ双葉会

12月例会



12月13日、いわき市好間公民館においていわき・まごころ双葉会12月例会が開催され、約90人が参加しました。

来賓として伊澤史朗町長をお招きし、当面の町政の諸課題等を含めたあいさつをいただきました。

第1部「有識者の講演」では、明星大学人文学部社会学科高木竜輔准教授から「避難生活の長期化とコミュニティ形成」と題し、講演がありました。

避難者によるコミュニティ活動には避難者であるがゆえの困難が伴い、避難先は「ふるさと」にはならない。やはり「ふるさと」は双葉町でしかない等との詳しい話があり、現実を改めて

直視するとともに興味深く聞き、実感として受け止めました。

第2部は、「昼食とビンゴゲーム大会」が行われ、女性部手づくりの昼食をいただきながら、ビンゴゲーム大会を楽しみました。「ビンゴ」と弾む声があちらこちらから上がり、景品のシクラメンの花を手に笑顔があふれ、会場は盛り上がりしました。

第3部の「癒しの時間」では、昨年に続き、女性コーラスグループ「コール・フロイデ」のコンサートで身近な抒情詩、洗練された素晴らしいハーモニーに魅了されました。合間には、故郷を思い出しながら、みんなで数曲を

感無量で口ずさみ、近くて遠い在りし日の双葉町を思い浮かべました。また、フロイデ・谷先生の教えて、明るく軽快なテンポの「いわき市歌」を歌いました。

第4部「心のマツサージ」では熊田幸子芸能一座(鶴星会)が津軽三味線の巧みな演奏と圧倒的な声量で民謡、カラオケ等の数々を披露し、会場は大きな拍手と熱気に包まれ、文字通り「心のマツサージ」となりました。

避難生活は4度目の冬を迎え、師走を吹き抜ける風は冷たく、ともすれば萎えそうになる年末、参加した皆さんにとってぬくもりと新年への希望を取り戻す有意義な時間となったようでした。

※大橋庸一事務局長より記事のご提供をいただきました。



ご成人おめでとうございます



▲成人式実行委員会の皆さん

成人を迎えて

成人式実行委員長 井戸川 俊

新成人として生きていくことに対し、多くの期待と同時に不安もあります。周囲の方々にご指導をいただくこともあるかと思いますが、少しでも早く社会の一員として認められるよう努力していきたいと思ひます。

東日本大震災から4年近くが過ぎ、故郷の双葉町への思ひは強くなるばかりです。そのような中で、次の世代としての行動を起こすことが私たちの責任であり、また私たちにしかできないことだと考えています。

立派な社会人となるためにも、皆さまのご指導のほど、よろしくお願い申し上げます

双葉町成人式

日 時：平成27年1月3日(土)

受付 12時～

記念撮影 13時～

式典 13時30分～

場 所：いわきワシントンホテル

平成27年 成人者名簿

(※生年月日順)

男子 33人

氏名	地区名	氏名	地区名	氏名	地区名	氏名	地区名
遠藤 拓海	新山	福田 一樹	下長塚	志賀 拓也	浜野	朝川 栄作	渋川
井戸川 俊	新山	関根 佑太	新山	村井 保亮	下条	山下 恵太	浜野
加藤 裕樹	山田	鈴木 瑛峻	下条	成田 昂平	新山	守家 優哉	鴻草
畑 中 建佑	三字	山本 正太	鴻草	大野 雅輝	鴻草	大井川 彰啓	新山
芟花 侑暉	山田	堀内 貴弘	下条	森田 翔平	三字	長塚 優希	細谷
渡部 健一	郡山	館林 康平	浜野	中井 文人	長塚一	大浦 裕太	長塚一
福田 雅史	長塚二	高倉 尚志	新山	橋本 斗輝也	下条		
朝田 光亮	寺松	野口 就跳	新山	大友 裕太	三字		
富澤 駿斗	新山	山田 和彦	山田	志賀 龍哉	三字		

女子 52人

氏名	地区名	氏名	地区名	氏名	地区名	氏名	地区名
伊東 美愛	下長塚	日熊 絵理佳	下条	吉田 奈津美	渋川	佐々木 楓	三字
鈴木 莉乃	新山	鈴木 稀純	細谷	坂本 玲奈	三字	原中 沙樹	長塚二
幾田 栄華	新山	富山 真実	新山	佐山 路子	下条	浪江 実央	長塚二
井戸川 春美	長塚一	伊藤 遥	長塚一	石澤 志穂	下条	新川 愛	中田
佐々木 杏花波	山田	大井川 里奈	新山	鶴見 智香	山田	高野 愛理	下条
石川 紗織	寺松	富谷 絵莉佳	長塚一	伊藤 香水未	新山	遠藤 日奈子	三字
田中 真子	石熊	吉田 月英	山田	天野 優紀	新山	菅野 佳穂	寺松
今泉 さやか	郡山	柚原 柚香	長塚一	松田 香澄	長塚一	只野 董	新山
田村 桃子	下条	伊澤 希	下条	横山 李音	下長塚	江又 理沙	浜野
吉田 瑞季	下条	平岩 美佳	両竹	菊地 美希	山田	武内 瞳	長塚一
長嶋 里音	長塚一	林 亜希	下条	森山 佳穂	山田	渡辺 望美	三字
岡田 明梨沙	山田	高橋 理沙	三字	永井 里佳	長塚一	及川 莉穂	長塚一
高屋敷 美穂	三字	細澤 めぐみ	郡山	伊藤 千尋	新山	作山 麻花	長塚一

新成人の皆さまおめでとうございます

20歳になったら国民年金

日本に住む20歳から60歳未満のすべての人は、国民年金に加入し、保険料を納めることが義務づけられています。若いときに公的年金に加入し保険料を納め続けることで、老後の生活を保障するだけでなく、万が一、病気や事故で障害が残ったときや一家の働き手が亡くなったときなど、あなたやあなたの家族を守ってくれます。

ただし、加入の届出や保険料の納め忘れがあると年金が受けられないこともありますので、加入手続きを行いましょう。加入に関する各種手続きは、役場または最寄りの年金事務所へお問い合わせください。

※20歳前に就職して厚生年金等に加入中の方は、手続きは不要です。

Q: 国民年金保険料を安くする方法はあるの？

A: あります！前納制度をご利用ください。

国民年金保険料を早めに納める（前納）ことにより、保険料が割引になります。

国民年金の給付は、
3種類の基礎年金があります

老齢基礎年金

65歳から生涯受けられます。

障害基礎年金

病気やケガで障害の状態になった方が受けられます。

遺族基礎年金

夫が亡くなったときに子のある妻または子が受けられます。

被保険者の種類	第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者
対象者	20歳以上60歳未満の自営業の方、農林漁業の方、学生・無職の方など	会社員、公務員など（厚生年金保険や共済組合の加入者で65歳未満の方）	第2号被保険者に扶養されている20歳以上60歳未満の配偶者
保険料	国民年金保険料 定額:15,250円(平成26年度) 付加保険料400円	厚生年金保険料 報酬に応じて、事業主と被保険者が折半で負担します	被保険者本人は保険料負担が不要です。(※配偶者の加入している年金制度の保険者が負担します)

学生納付特例制度について

学生の方は一般的に所得が少ないため、ご本人の所得が一定以下の場合、国民年金保険料の納付が猶予される制度です。

対象者は、学校教育法に規定する大学（大学院）、短期大学、高等学校、高等専門学校、専修学校及び各種学校（修業年限1年以上である課程）、一部の海外大学の日本分校に在学する方です。申請書の受付は、役場または最寄りの年金事務所となります。

※学生の方以外にも保険料の納付が猶予される制度があります。

年金手帳は大切に保管しましょう

公的年金制度では、全ての制度に共通する基礎年金番号が使用されます。

国民年金や厚生年金に加入すると基礎年金番号が記載された年金手帳が交付され、加入記録や保険料の納付状況等がこの番号で管理され、年金に関する手続きの際に必要となりますので、大切に保管してください。

【問い合わせ先】健康福祉課 国保年金係

☎0246-84-5205

税務署から 個人事業者の平成26年度分消費税確定申告に関するお知らせ

平成26年4月1日から消費税（地方消費税含む）の税率は8%です。

平成26年分（平成26年4月1日を含む課税期間）の消費税及び地方消費税の確定申告書を作成するためには、帳簿等において、課税取引を適用税率ごとに区分して集計する必要があります。

※消費税法の改正内容については、国税庁ホームページ（www.nta.go.jp）をご覧ください。

【注意してください】

- 課税取引に対する適用税率は①平成26年3月31日以前は5%、②平成26年4月1日以後は8%ですが、平成26年4月1日以後に行われる取引であっても、経過措置により5%が適用される場合があります。
- 帳簿等では、非課税取引等についても区分する必要があります。

—健康生活のススメ—

冬の水分補給



冬は乾燥の季節、外では雪が降っていても暖房しているとすぐに乾燥してしまいますね。気温が下がって夏のように汗をかかなくなると、のどの渇きを感じにくくなるため冬は水分摂取も減ってしまいがちです。私たちは毎日水分を食事から約1,000ml、飲みものから約1,200ml摂っていますが、尿や便、汗などで同じくらいの量の水分を体から排出しています。これは季節と関係なく年中同じです。

水分補給は夏の熱中症予防だけでなく、冬もしっかりと対策した方がよさそうです。

風邪やインフルエンザの原因になるウイルスは乾燥に強く、湿度が低いと活動が活発になり、反対に湿度が50%以上になると活動が低下します。水分により喉や鼻の粘膜をうるおすことで、ウイルスの侵入を防ぐと同時に、侵入したウイルスを痰や鼻水によって体外に排出する作用を助けます。また、発熱、下痢、嘔吐などの症状がある時は、体からの水分排出が多くなりますので、きちんと水分を補給するようにしましょう。

冬になると脳卒中や心筋梗塞の発症が増えます。寒い空気にあたって急に血圧が上昇することも原因ですが、水分補給も関係します。水分摂取が少ないと血液中の水分も減るため、粘度が上がってドロドロ状になり、血管が詰まりやすくなるためです。このような症状が出なくても、集中力の低下や体調不良を起こす可能性が高くなります。

水分補給のタイミングは、朝起きた時、入浴後、寝る前など。のどが渇いていなくても、心がけましょう。いちどに体が吸収できる量はコップ1杯分程度なので、たくさん飲むよりもこまめに補給してください。また、お酒は水分の補給にはなりません。アルコールには利尿作用があり、かえって水分は不足しますので、お酒を飲んだ後にも水分補給が必要です。

○1日にどれくらいの水分をとればいいのか？

成人で体重1kgあたり40～50mlです。

子どもは新陳代謝が活発なため、倍くらい必要です。

○かぜ予防におすすめの水分補給法

紅茶に…体を温めるしょうがを加える

皮膚や粘膜を健康に保つレモンを加える。

ホットミルク…リラックス効果もあります

※長いものは皮をむいて酢水にしばらく浸けると、変色を防ぐことができます。その後、さっと水洗いするとぬめりが取れ、すりおろしやすくなります。手に酢水をつけてからすりおろすとかゆみも防げます。

※とろろを入れることでふわふわと食べやすくなります。

かんたんレシピ

○豆乳鍋風スープ 【1食分】

<材料>

- ・白菜…100g
- ・豚肉（しゃぶしゃぶ用など薄切りのもの…60～80g）
- ・たまねぎ…1/4個
- ・にんじん…3cm分
- ・めんつゆ…大さじ1



- ・酒…小さじ1
- ・豆乳…1/2カップ
- ・細ねぎ…2本分

<準備>白菜は食べやすい大きさに切る。玉ねぎ、にんじんは、うす切り。しょうがは、せん切り。

<作り方>

- ①鍋にそれぞれ1/2量の白菜、豚肉、たまねぎ、しょうがの順で重ねる。
- ②残りの1/2量も同じように重ね、最後ににんじんのせる。水、めんつゆ、酒を加えてふたをして加熱する。

③野菜が柔らかくなったら豆乳を加え、沸騰させないように弱火で温める。

※耐熱性の皿か容器に入れて、電子レンジでもできます。1人分ずつなら電子レンジの方が作りやすいです。

※豆乳は熱によりたんぱく質が固まってしまい分離するので、沸騰しないようにしてください。

○長いものミルクスープ 【2食分】

<材料>

- ・にんじん…1/2本
- ・玉ねぎ…1/3個
- ・ブロッコリー…40g
- ・長いも…90g（細めのものなら5cm程度）
- ・あさり水煮缶…20g
- ・水・牛乳…3/4カップ（150CC）



- ・固形コンソメ…1個
- ・塩コショウ…少々
- ・粉チーズ…適宜

<準備>にんじん、玉ねぎは1cm位の大きさに切る。ブロッコリーは茹でておく。長いものはすりおろす。

<作り方>

- ①鍋に水、コンソメ、牛乳、あさり、にんじん、玉ねぎを入れてやわらかくなるまで煮る。
- ②ブロッコリーと長いもを入れ、ひと混ぜし、塩コショウで味をととのえる。
- ③皿に盛り、粉チーズをかける。

第25回双葉町芸能発表会

双葉町ダルマ市会場において、第25回双葉町芸能発表会と双葉町民俗芸能等の発表を行います。
ご家族皆さままでおいでいただき、ぜひご覧ください。

日時：平成27年1月10日（土）午前10時～
場所：いわき市南台応急仮設住宅 イベント広場

プログラム

	時間	演目	団体名	出演者等
	10:00	開会		実行委員長あいさつ 会長あいさつ存会
1	10:10	和太鼓 「いなづま」「夏」	標葉せんだん太鼓保存会	横山久勝 外9名
2	10:30	コーラス 「悲しみの青い鳥」 「双葉町民の歌」	コーラスふたば	上野節子 外14名
3	10:40	民謡 「大漁唄い込み合唄」 「壁塗り甚句（踊り付）」	民謡同好会	伊藤美枝子 外11名
4	10:50	大正琴 「小鹿のバンビ」 「バラが咲いた」「千曲川」	JAふたば大正琴	江尻京子 外13名
5	11:15	舞踊 「龍虎の舞」	若幸流 華の会	若幸華三夜(中野三衛)
6	11:25	フラダンス 「ハナレイムーン」 「涙そうそう」	双葉フラレディース	佐藤洋子 外4名
7	11:35	箏 「春の海・風にきけパートⅡ・メドレー」		大川義秋
8	11:50	ふたば音頭		来場者全員
	12:00	閉会		副実行委員長あいさつ

双葉町民俗芸能等の発表

日時：平成27年1月10日（土）
8：30～ 奉納神楽（新山神楽保存会）
12：15～ 相馬流山踊（双葉町婦人会）
12：30～ 前沢の女宝財踊り
（前沢婦人会芸能保存会）

主催：双葉町教育委員会

主催：双葉町芸術文化団体連絡協議会
後援：双葉町・双葉町教育委員会
福島民報社・福島民友新聞社
【問い合わせ先】双葉町教育委員会
教育総務課 生涯学習係
☎0246-84-5210



双葉町結婚対策協議会からの お知らせ

双葉町結婚対策協議会では、双葉町ダルマ市会場において若者の出会いの場と絆づくりを目的にブースを設けます。ぜひご来場ください。


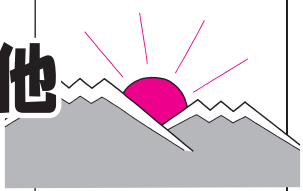


日時：平成27年1月10日（土）10：00～15：00（予定）
平成27年1月11日（日）10：00～14：00（予定）
場所：いわき市南台応急仮設住宅（双葉町ダルマ市会場）
内容：フタバくんぬり絵コーナー
フタバくん風船コーナー

※当日ブースの運営に協力していただく若者を募集しています。希望される方は双葉町教育委員会 教育総務課生涯学習係までご連絡ください。
☎0246-84-5210

生涯学習で 自分みがき・仲間づくり

教育総務課生涯学習係事業開催のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3 成人式 いわきワシントンホテル 13:30～	
婦人学級・その他 行事等の日程 		<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; text-align: center;"> ○たんぽぽ学級(郡山市)は1月下旬に茶話会を予定しています。 </div> <div style="border: 2px solid pink; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;"> ○平成26年度の生活学級は12月をもって終了しました。皆さんにご参加いただきありがとうございました。 </div>				9	10 だるま市1日目 第25回双葉町 芸能発表会 10:00～ ○ひめ萩婦人学級 (宮城県仙台市)
		4 ○ふたば婦人学級 (会津若松市) 新年会	5	6	7	8	9
11 だるま市2日目	12	13 ○すみれ婦人学級 (いわき市南台)	14 ○桜婦人学級 (いわき市) 作品作り いわき市文化センター 10:00～	15	16	17 ○さくら生活学級 (茨城県つくば市) 新年会 つくば連絡所 10:00～	
18	19	20 ○ひまわり婦人学級 (白河市) ○梅檀婦人学級 (福島市) 新年会 11:00～	21	22 ○はなみずき婦人学級 (加須市) 新年会	23	24	
25	26	27	28 ○しらゆり婦人学級 (南相馬市) 新年会	29	30	31 <div style="border: 2px solid pink; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> 婦人学級 ○は、婦人学級です。 </div>	

＜お申込みについて＞

各学級に参加ご希望の方は各学級長、または生涯学習係までご連絡下さい。

～社会福祉協議会サロンのお知らせ～

平成 26 年度も福島県内外において社会福祉協議会サロンを開催しています。

双葉町民の交流や情報共有及び心身のリフレッシュを兼ねて、日常生活の糧へと繋がるような楽しい時間を一緒に過ごしましょう。



1月開催予定日

開催場所	住所・連絡先	開催月日	時 間
白河市郭内第二応急仮設住宅 D2-4	白河市郭内 151-29 080-6290-5930 (担当: 開発)	毎週水・金	9:30 ~ 11:30 13:30 ~ 15:00
双葉町コミュニテイ施設 せんだん広場	郡山市御前南 2 丁目 73 024-983-1861	1月26日(月)	14:00 ~ 15:30
郡山市 富田町若宮前応急仮設住宅集会所	郡山市富田町字町田 11 024-983-9420	1月26日(月)	10:00 ~ 11:30
郡山市 喜久田町早稲原応急仮設住宅集会所	郡山市喜久田町早稲原字上ノ端 54-4 024-983-9590	1月13日(火)	10:00 ~ 11:30
白河市 郭内第二応急仮設住宅集会所	白河市郭内 151-29 0248-27-2324	1月13日(火)	10:00 ~ 11:30
福島市さくら応急仮設住宅談話室	福島市さくら 1 丁目 10-1 024-593-6511	1月15日(木)	10:00 ~ 11:30
福島市 北幹線第二応急仮設住宅集会所	福島市飯坂町平野内小田原 8-1 024-573-2598	1月15日(木)	13:30 ~ 15:00
小名浜市民会館 1階中会議場	いわき市小名浜愛宕上 6-1 0246-54-9174	1月20日(火)	10:00 ~ 14:00

【問い合わせ先】双葉町社会福祉協議会 郡山事務所 024-973-5291【担当: 泉田】

医療従事者の皆さんは届出を忘れずに!

医師・歯科医師・薬剤師・看護師・歯科衛生士などの皆さんは、医師法等関係法律により、2年に一度、住所や従事先等を記載した届出票の提出が義務づけられています。

平成 26 年は届出の年にあたりますので、該当する方は平成 26 年 12 月 31 日現在の状況を保健所まで届け出てください。

届出対象者

(1) 日本に居住し、日本の医籍・歯科医籍・薬剤師名簿に登録されている全ての医師・歯科医師・薬剤師(従事していない方も含みます)

【届出先: 住所地または就業地を管轄する保健所】

(2) 県内で就業している保健師・助産師・看護師・准看護師・歯科衛生士・歯科技工士

【届出先: 就業地を管轄する保健所】

保健所への提出期限 平成 27 年 1 月 15 日(木)

【問い合わせ先】

最寄りの県保健所、郡山市保健所、いわき市保健所

または県庁保健福祉課 024-512-7217

消防署からのお知らせ

空気が乾燥し、**火災が発生しやすい季節**です!

- ・暖房器具の周りには物を置かないようにしましょう。
- ・寝たばこはしないようにしましょう。
- ・調理中キッチンから離れないようにしましょう。
- ・屋外での火の取り扱いには十分注意しましょう。

入浴時の**事故には注意**しましょう!

- ・長湯、高温浴は避けましょう。
- ・飲酒後の入浴はやめましょう。



火事と救急は 119

< 消防署連絡先 >

浪江消防署 0240-38-2119

富岡消防署 0240-25-2119

各地婦人学級等の活動報告

白河市ひまわり婦人学級（釘野紀美枝学級長）、仙台市ひめ菫婦人学級（岡田三枝学級長）から活動の報告が寄せられましたのでご紹介いたします。



▲▼ひめ菫婦人学級（笑いヨガ教室）



▲ひまわり婦人学級（ソバ打ち体験と食事会）



甲状腺検査についてのお知らせ

【対象者：原発事故当時39歳以下だった方】

対象の方には、受診券を7月中～下旬に受診券をお送りしています。検査を受けられる医療機関に直接お申込みください。*

受診券の有効期限は平成27年2月末までです。受診券を紛失してしまった方は、再発行しますのでご連絡ください。

※ひらた中央病院での甲状腺検査をご希望の方は、健康づくり係までご連絡ください。

内部被ばく検査や健康診断・がん検診の結果は、健康手帳に大切に保管してください。

【問い合わせ先】健康福祉課 健康づくり係
☎0246-84-5205

人のうごき11月分

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
木幡穂乃花 こわたほのか	10月31日	彬・亜衣	長塚一
石澤 柊馬 いしざわ しゅうま	11月1日	英美・陽子	石 熊
安井耀志朗 やすい ようしろう	11月9日	雄一・登志子	三 字
関根 誠人 せきね まこと	11月11日	武彦・さやか	長塚一

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
高松タツ子	84	10月31日	鴻 草
加藤 義男	81	11月22日	山 田

双葉町民の避難状況

（平成26年12月1日現在）

- ・福島県内に避難されている方 4,065人
- ・福島県外に避難されている方 2,961人

※平成23年3月11日時点の住民基本台帳人口から死亡者を引き、出生者と転入者を加えた人口を示しています。

連絡のついた方で、了承の得られた方のみ出生、死亡の方の名前を掲載しています。

なお、掲載を希望しない場合は秘書広報課までご連絡ください。
0246-84-5202

双葉町を忘れない

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、私たち双葉町民はふるさと双葉町を離れ、今もお全国に分かれて避難生活を送っています。

先の見えない不安な生活の中で、町民の皆さんが毎日をどのような思いで過ごし、ふるさと双葉町への思いを抱き続けているのかを、皆さんの声をお聴きしながら「ふるさと絆通信」として連載していきます。

そして「ふるさと絆通信」を通して、皆さんの双葉町への思いと心の絆がより一層深まることを期待いたします。

記録として次の世代へ きずな ふるさと絆通信

第20号



**「ふるさと絆通信」であなたの
想いを伝えてみませんか。**

ふるさと絆通信では、避難されている皆さんへ想いを伝えていただける方を募集しています。避難生活での活動や日々の生活の中で感じていること、ふるさと双葉町への想いをこのコーナーでお話ください。双葉町民の方ならどなたでも結構ですので、ご連絡をお待ちしています。

**【問い合わせ先】秘書広報課
☎ 0246-84-5202**



ずっと、ふるさと。双葉町。

ふじた ひろし
藤田博司さん

よねこ
ヨネ子さん

(下条)



●避難先●
埼玉県加須市



私たちは有機栽培による水稻（主にコシヒカリ・ミルキークイーン）の栽培と畑作、牛の繁殖を行っています。牛の排泄物を堆肥化して田畑の肥料として利用し、逆に、田畑の作物の残さを飼料の一部として牛に与えるという循環型農業を行っています。

生産物についてもそれなりの評価を頂いていたと思っています。米は、被災以前に日本橋高島屋で開催された双葉町物産展に参加したこともあり、有機栽培米として双葉町内のみならず、県内外の皆さんにご愛顧いただきました。ほとんどが個人のお客様でしたが、横浜市内の鰻料理店（うなぎ）で使っていただけでもなっていました。牛については、飼育していたうちの2頭が、全国和牛共進会に出品する福島県の候補牛に挙げておりました。

震災後、旧騎西高校をはじめ、数力所の避難所を転々しました。避難途中、新潟県内で交通事故に遭い、夫婦ともに負傷し、妻が長期入院したこともありました。妻の退院後、旧騎西高校に移りました。同校滞在中、川崎市内の市営住宅が被災者向けに開放されていることを知り、どこに身を寄せればいいのかわからないという状況ながらも、少しでも生活環境を改善したいという思いで入居しました。避難所を離れても、行政区長やまちづくり委員などの役割は継続していたため、旧騎西高校に通う日々が続きました。川崎市から

加須市までは2時間程度かかるため、避難所に布団一組分のスペースを用意していただき、騎西通いを続けることができました。

避難後、身動きが取れない時間に苦痛を感じていました。そんな中、NPO法人整膚美肌褥瘡予防協会の支援により開催された「整膚士養成講座」に平成23年8月から5カ月間、妻と共に参加し資格を取得しました。「整膚」は、皮膚を引っ張ることで血流を良くし、疲労回復などを図るものです。私たちを含め13人の町民が参加しました。資格取得後はボランティアとして、旧騎西高校や同校周辺の老人福祉施設などで活動を始め、現在に至っております。

しばらく川崎で暮らしましたが、昨年末、加須市内に移りました。畑を借りて農作業も行うようになりました。故郷にいたときのようにはいきませんが、土に触れ合うことは大きな喜びです。気候や環境が違ったため、戸惑いを感じることも少なくありませんでしたが、徐々に慣れてきたように思います。

双葉町では、自宅周囲で取るタケノコ、フキ、ゼンマイなどをはじめとする山菜類、原木栽培の各種キノコなど、自然豊かな環境の中で四季を感じながら暮らしていました。

私たちは双葉町に帰還したいという希望を持ち続けています。一旦、加須に落ち着きました。あくまで帰還できるまでの途中経過だと思っています。



つるしま ひろゆき
鶴島 寛之 さん
 のぶよ
伸予 さん
 (長塚一)

ふるさと ●避難先●
 福島県南相馬市
絆通信

私は平成元年に興じた会社（有限会社丹治電気工業）を、現在、3人の社員と共に経営しています。会社は原子力発電所の電気関係の設計を行っていたため、被災からしばらくの間、震災復旧対応のため、妻らと離れて単身赴任生活を送っていました。昨年からは現場の一線を離れ、社員たちのバックアップにあたっています。

私たち一家は、南相馬市内の親類宅や県内の避難所を経て郡山市内の借上げ住宅でしばらく生活しました。川俣町の避難所に身を寄せたとき、町からは埼玉県内に移動すると告げられましたが、福島県内から離れるわけにはいきませんでした。同じ借上げ住宅には、以前から付き合いのある知人も生活しており、初めての土地ではありませんが、お互いに励まし合い、時間を過ごすことができました。

昨年4月、南相馬市原町区に自宅が完成したためこちらでの生活を始めました。震災前から原町は同じ相双地区ということもあり、親近感があったため、故郷に近く、ある程度生活の便がある場所として多くの双葉町民が生活拠点を構えるかと思っていました。浪江町や同市小高区の皆さんは数多く生活しています。但馬町の姿はほとんどありません。中通りやいわき方面で生活している皆さんからは、南相馬は放射能の危険があるようなことをよく耳にします。しかし、測定結果や原発事故時の放射能飛散状況などから、山

間部の一部を除いて危険な状況にあるとは考えられません。約40年間、原発関連の仕事に携わる中で、放射能や放射線防護に関する教育を受けてきましたが、風説などではなく客観的に判断して欲しいものと思います。いわきで生活する友人などからは、多くの避難者により混雑や狭小が生まれていると聞きますが、この南相馬は、故郷により近く余裕のある生活が送れる場所だと感じています。

以前は様々な活動をしていた妻も、避難後は体調を崩した時期もありましたが、先月は婦人学級の活動を通し、正月花の指導をするなど、少しずつではありますが以前のような生活を取り戻しつつあります。

被災する約1年前、長年町議会議員を務めていた義父が亡くなりました。大地震と大津波に襲われた日は、その一周忌からわずか5日目のことでした。

義父は町議在職中も含め、一貫して原発反対を貫いてきました。社会の変化の中、同じ反対派の中には考えを変える方の姿もありましたが、ブレずに信念を突き通していました。その義父が、現在の双葉町を見たらどう思うかと考えると心が痛みます。

避難により町を離れるとき、妻は自宅に「さようなら」と言葉をかけたそうです。忘れ難き故郷ではありますが、残された人生を有意義に過ごすためにも、気持ちを切り替えて、前を向いていきたいと思えます。

いけした しゅういち
池下 修一 さん

(新山)



●避難先●
仙台市青葉区



私は母と共に中華料理店「二福屋」を営んでいました。高校卒業後、進学や就職などで町を離れてしまうと、戻ることは無いという人が多いという世代ですが、私は故郷が大好きで、高校卒業後、料理人として約7年間の修行を経て双葉に戻りました。

被災以前の私について知っている皆さんの多くは、店で(母と)親子げんかをしているように見えたとか、いつもサーフィンをしているというイメージかと思います。まず、「けんか」については、お客様を待たせて調理を進める必要があるため、お互いにシビアになっ
てしまい、母と私は仕事中に限つてですが、交わす言葉も鋭くなつていたためだと思えます。サーフィンについては、全くその通りで、ほぼ毎日、朝の開店前と、昼と夜の営業の間に波乗りを楽しんでいました。サーフィンは、高校生だった頃、夏休みに海水浴場で監視員のアルバイトをしていた時、友人のサーフボードを借りてチャレンジしたのがきっかけでした。それから、修行のため東京に出ている期間を除いて、危険が無い限り、波乗りは日課になっていました。

避難後、私たち親子は町と行動を共にし、川俣町、さいたまスーパーアリーナ、旧騎西高校へと移動しました。同校では約1年9ヵ月ほど生活しました。その間、町の臨時職員として、避難所となった同校の警備の仕事に就いていました。慣れない土地と環境では、

一人一人が気を付けても様々な問題が起こつてしまいます。中高校生の喫煙を注意して話を聞いてあげたり、世代は問いませんがけんかを止めに入つたこともありました。物干し場に下着泥棒が現れたり、無関係な若者の侵入などもありました。そうしたイザコザは、原発事故さえ無ければ有り得ないことです。

平成25年1月、セブンイレブン双葉下条店が「セブンイレブン仙台あおば通店」として避難移転開業するのに伴い、同店オーナーからお声掛けいただいたのを機に、加須を離れ、仙台市内に生活拠点を移しました。被災以前と同じ客商売とはいえ、飲食と小売は勝手が違います。働き始めた当初は戸惑いもありましたが、オーナーや私と同じように双葉町から避難している同僚らに支えられながら元気にやっています。

避難後、店の再開について考えたことが何度かありました。母と共にこだわりを持って守ってきた店ゆえに、町を追われたからといって簡単にあきらめることはできません。「あのラーメン、餃子が食べたい」という声も数多くいただいています。しかし、開店にかかる負担や環境が変わることで味が変わってしまうことを考えると、そう簡単に再開ができません。

私は故郷・双葉町が大好きです。避難への規制が解除されれば、すぐにでも町に戻るという気持ちは決して変わりません。



いとう はるか
伊藤 遥さん

(長塚一)



●避難先●
福島県いわき市

私は被災翌日以降、故郷・双葉町の地を踏んでいません。生まれ育った町の姿を見たい、今を知りたいという気持ちはやまやまですが、放射能汚染と放射線への不安もあるため、一時帰宅には至っていません。

震災発生当時、私は双葉翔陽高校の1年生の3学期を迎えていました。避難により家族と共に町を離れ、飯館村内の親類宅や郡山市内を経て、避難所となったホテルリステル猪苗代へと身を寄せました。同ホテル滞在中、2年生の1学期は、会津坂下高校内に開設された双葉翔陽高校のサテライト校に、同2学期からはいわき市内の借上げ住宅への移動に伴い、平商業高校内に開設されたサテライト校に通学し、両親をはじめとする多くの皆さんに支えられながら、平成25年3月、無事、高校を卒業できました。

私は、幼い頃から教育関係の仕事に就きたいと考えていたため、いわき明星大学を受験・入学し、現在、同大学2年生として人文学部表現文化学科に在籍し、英語教諭を目指しています。高校在学中、幼稚園教諭や保育士を目指すコースに在籍し、部活動は吹奏楽部に所属していました。そうした中、将来、教諭になってからも部活動の指導を通して吹奏楽ともかかわっていききたいと思い、カリキュラムを変更して、中学・高校教諭を目指すことにしました。大学入学後も音楽は続けており、現在大学ではいわき明星大学吹

奏楽団に所属し、クラリネットを担当しています。楽団のメンバーはいわき市出身の方がほとんどですが、山形県など県外出身者も所属しているため、楽団の活動を通して多くの方と触れ合うこともでき、充実した時間を過ごすことができています。また、アルバイトで塾講師や学童保育にも携わるなど、単に仕事をするというだけでなく、将来の目標に何らかの役に立つように心がけています。

震災と原発事故以降、福島県内では、子どもたちの教育環境が必ずしも良い状態にあるとはいえません。私自身、高校3年間のうち、その半分以上をサテライト校という環境で過ごし、そうした現実が生徒の立場ではありますが、身に染みて感じています。

今年、私は成人式を迎えます。子どもから大人へのけじめの時です。とはいえ、自分に何ができるのか、はつきりとは分かりませんが、自分の世代から見た将来、未来を担っていく世代の子どもたちのためにも、教員として故郷の復興に少しでも貢献できればと考えています。

来月、大学のプロジェクトの一環でイギリス研修に参加します。未曾有の事態から復興するにあたっては、より広い価値観や考え方が必要と思います。研修では、世界が、我が国と私たちをどう見ているのかを考えつつ、今後へのヒントになるような出会いがあればと思っています。

真宗大谷派
長命山 正福寺

まつもと ようこ
坊守 松本 洋子 さん

(長塚一)



●避難先●

福島県須賀川市



正福寺を護る傍ら、社会福祉法人としてまどか保育園の運営を行っていましたが、寺は仮御堂の建設を、保育園は再開に向けた準備をそれぞれ進めております。

震災当日、保育園ではお誕生会とお別れ会が行われました。お昼寝が終わり、小さい子供のクラスはおやつの準備中、大きいクラスの子供達はお祝いのケーキを食べ満足していた時、大地震に襲われました。家が倒れていたり物が散乱している中、北小に避難し、何とか長い長い一日を過ごし、全員のお子さんをお返しすることができ安堵しました。

しかし翌朝からの避難では、家族バラバラに町を離れました。寒い中での避難所を経て会津へ移動、そして群馬県の高崎の地へ落ち着きました。それと前後して双葉町がさいたま市に移りました。そうした中、さいたまスーパーアリーナでは、ささやかながら涙、涙の保育園の満了式を行いました。

正福寺は、双葉町をはじめとする旧相馬藩が激甚な被害を受けた「天明の大飢饉」の後、天保二年（1831年）開基されました。当時は他藩への移住が事実上禁止されている中、相馬藩が新領民を北陸地方から呼び寄せました。その時、橋渡し役となったのが浄土真宗でした。当寺の開基は現在の富山県からそうした移民の方々とともにこの地に参りましたが、それから180年目の受難となりました。

震災と避難後の余震と風雨により、本堂

は大きな被害を受けました。避難により、全町民が各地に分散しています。帰還までには相当な期間を要する中、御門徒の皆様への心の拠り処になるところを考え、2年前より福島県に戻り物件を探しておりました。そして須賀川市内に落ちついた静かな場所に出会いました。この地域は、震災の大地震で貯水池「藤沼湖」が決壊し、まさに「山の津波」により大きな被害に見舞われました。

しかしその地に導かれるように金色に輝く阿弥陀仏が安置されることとなりました。真新しい金色に輝く須弥壇に修復によって更に輝きを増した阿弥陀仏のお姿はまさにお浄土を再現しているようです。2度の火災と今回の震災を乗り越えて復活を果たしたことは不思議なる大きな力に後押しされたものと思っております。

今後更なる工事を進め、今年の春、暖くなる頃には皆さんにお参りいただけるようになる見通しです。日展審査員の江里先生作である編笠あみかさをお取りになった2メートルの親鸞聖人様が出迎えて下さることでしょう。また藤沼湖周辺施設も再オープンする運びです。

現在、寺については仮御堂の完成に見通しが立ちましたが、保育園は再開までしばらく時間がかかりそうです。故郷を離れた生活はしばらく続くとは思いますが、御先祖から受け継いだ歩みと、皆様との御縁を大切に寺と保育園双方の再建に努力を重ねてまいります。

ぼくの夢・わたしの夢



双葉町立双葉北小学校 6年 こわた木幡 しげきよ穰清 くん(長塚一)

ぼくは、まだはっきりとした将来の夢はないけれど、将来は双葉町に貢献できるような人間になりたいです。

あの3月11日から変わり果ててしまった双葉町は、現在とても住めるような環境ではないことは十分承知です。ですが、ぼくはどうしてもふるさと双葉町を捨てきれないので、成人したら双葉町の復興に一生を捧げたいと思うのです。ふるさとを捨てきれない思いは、この文章を読んでいるあなたも同じはずです。ですから、双葉町のことをどうか忘れずにいてください。

ぼくは今まで目標を口だけで終わらせてしまった事も多くありましたが、復興に貢献したいという思いは決して口だけで終わらせたりしません。そしてぼくも双葉町の事を40年、50年経っても忘れません。



今月のベストスマイル

編集後記

平成27年の新しい年を迎えました。新年号の表紙は、ふたば幼稚園の先生と子どもたちです。子どもたちは4月から双葉北小学校の一年生になります。昨年、広島市で豪雨土砂災害、御嶽山の噴火など想像を超える自然災害にみまわれ、数多くの尊い命が奪われました。防災対策には絶対大丈夫ということはありませんが、一人ひとりが自分の周りに起きそうな災害を想定し、被害をできるだけ少なくする対策を講ずることが重要ではないでしょうか。今年も未年(ひつじどし)です。群れをなす羊は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らす事を意味しているそうです。避難生活の日々ではありませんが、羊のように家族仲良く、穏やかな日々を過ごしたいですね。そして、迷える子羊にならないように目標をしっかりと見定めて、その実現に向かってがんばっていききたいものです。良い年になりますように…。今年もよろしくお願いたします。



第1回双葉町民パークゴルフ大会で、たかのあさり高野麻里さん(三字)とたかのひな高野陽奈さん(8歳)親子の笑顔です。

連絡先

○いわき事務所 〒974-8212 福島県いわき市東田町二丁目19-4
☎ 0246-84-5200 FAX 0246-84-5212、0246-84-5213
✉ futaba@town.futaba.fukushima.jp

○郡山支所 〒963-8024
福島県郡山市朝日一丁目20番2号
☎ 024-973-8090
FAX 024-933-5120
✉ fukushima@town.futaba.fukushima.jp

○埼玉支所 〒347-0105
埼玉県加須市騎西36番地1 加須市騎西総合支所1階
☎ 0480-53-7780
FAX 0480-53-7266
✉ saitama@town.futaba.fukushima.jp

○双葉町公式ホームページ <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/>
携帯サイト <http://www.town.fukushima-futaba.lg.jp/m/>

○双葉町公式フェイスブックページ [つなげよう つながろう ふたばのわ](http://facebook.com/fukushima.futaba)
<http://facebook.com/fukushima.futaba>

